

シリアの日常を 日本に伝える



田村 雅文さん

シリア支援団体
サダーカ代表

2000年、大学1年生の時に、日本イラク医学生会議という学生団体でイラクに行ったことが、中東に関わるようになったきっかけです。当時、イラクは世界から孤立し、厳しい経済制裁が行われていました。ニュースでは伝えられない普通の人々の日常を知り、日本に伝えたいという思いで現地を訪れました。当時、クルド人の通訳の方から言われたことが深く印象に残っています。「君らはあと3日経てば日本に帰るだろう。でも僕たちは自由がないとはいえ、自分たちの国だから、当然ここに残っていく」。その時、彼が使った“freedom”という言葉が、強烈に脳裏に焼き付いていて、いつも思い出します。「自由」って、本当に何なんだろうなど。

大学院で国際開発学を勉強したものの、現場をしっかりと見なければと、青年海外協力隊として、2005～07年にシリアに行きました。シリアの庶民の日常って、当たり前ですが、本当に生活感に溢れているんですよ。家族がいて、親戚が行き来し、仕事に行き、教育があり、子どもを産み、という。もちろん僕らと文化も価値観も、全く違うのだけれど、そこには彼らの生活がある。日本の多くの人には、メディアの影響もあり、シリアや中東地域を「危険」「怖い」「テロリズム」といったイメージで見ていると思います。でも僕は現地で、違いよりむしろ共通点をたくさん見てきて、今ニュースで語られる非日常の姿がすべてでは全くないということを、何とか発信し、伝えていきたいと思っています。

2011年3月頃に始まったシリアのアサド政権と国民の間での「騒乱」は、1年以上が経過した今でも、戦闘や爆撃の収まる気配がありません。今の状況の根底には、親子2代、40年間続いた独裁体制への国民の不満が噴出し、「我々に選ぶ自由を」という思いがあったと思います。しかし彼らは同時に、政府に反抗することで、自分や家族が危険に晒されないかと恐れています。国際社会からは見放され、状況が悪化・長期化し、出口が見えない状況です。国連は6月末、シリア周辺国への難民が現時点で9万6千人、今年末までに18万5千人に達する可能性がある」と発表しました。家を失った

国内避難民は100万人以上とされます。彼らはどう過ごしているのだろうか、本当に心配です。首都のダマスカスでも夜には銃撃戦があるようで、彼らは平安な気持ちでは過ごせません。シリアの多くの人たちのことを思い出すと、初めはなんとなくデモに参加していて、まさかこんな戦争状態になるとまではイメージしていなかったと思います。

青年海外協力隊のOB/OGや大学関係者などで、今年の3月に、シリア支援団体サダーカを立ち上げました。「サダーカ」とは、アラビア語で「友情」を意味します。これまで、いくつかのイベントで写真展を行い、支援金を募り、現地に送りました。隣国のヨルダンにベースを置くCIDS (Concerned Individuals for Displaced Syrians) というNGOと連携しています。日本にはシリアの支援に取り組む団体はほぼ他にありません。多くの人々に、今のシリアの状況を知ってもらえるよう模索しています。たとえば、自分たちがシリアで知り合った友人たちの思いを聞いて、発信していくことも一つだと思います。また、日本にいるシリアの若者が今どんな日常を送っているのか。どんな思いを抱えて、日本から今の母国を見つめているのか。言ってみれば「外部者」である僕ら日本人にできることは何か——。非常に小さなアクションですが、次のシリアを背負って立つ、彼らの力になりたいと思っています。彼らの内の何人かは、「シリアには選挙もない。せめて国民に選ばれた人が国の方向を示すべきだ。私たちが選んでいない人間が国を引っ張っていきなっておかしい」と語ります。

サダーカの目的は二つあります。一つは、シリアの人たちに、できる限り寄り添いたいということです。活動は小さくても、自分たちが直接、固有名詞に関わりあえるカウンターパートと一緒にやっていきます。もう一つは中長期的なもので、日本の中にあるシリアや中東地域への偏ったイメージを改善していきたいということです。シリアの問題を通して、日本で暮らす私たち自身が、「自由」や「民主主義」といったことを考えるきっかけとなるような場にもしていきたいと思っています。今の日本では、自分たちの10年後、20年後の社会をどうしたいかを考えることが、とても難しくなっていると思います。僕らは何を求めて生きていくのかを考えるためのプラットフォームになる。そのプロセスは、「他人事」を「自分事」にしていくことにもつながります。そこまでやるには時間がかかるでしょうが、そういう団体を目指してやっていきたいと思っています。

(2012年7月3日談。まとめ: 塚田晋一郎、写真: 松長怜美)

「サダーカ」ウェブサイト
www.sadaqasyria.jp



たむら・まさふみ

1979年三重県生まれ。2005～07年、青年海外協力隊(環境教育分野)でシリアに赴任。民間企業営業等を経て、2012年3月にシリア支援団体サダーカを設立。